



鹿沼市認定

鹿沼の名匠

「ものづくりのまち鹿沼」を熟練の技で牽引する“鹿沼の名匠”。鹿沼の産業や文化の振興を担うその技と心意気をご紹介します。

vol.25

建築物移転・補修

五月女建設株式会社

そうとめ あきひさ

五月女 晃久さん(府中町)

プロフィール

昭和49年、府中町生まれ。国指定有形文化財の耐震改修工事をはじめ、日本遺産の移転工事など、高度な^{ひきや}曳家技術を要する工事を遂行してきた。

明

治35年創業の五月女建設株式会社は「曳家工事」や「公共工事」を行う総合建設会社です。曳家とは、建物を解体せずに移動させる技術で、文化財や歴史的価値のある建造物を移転・補修することで、未来に繋ぐことができます。現在では、この曳家の技術を持った会社は全国でも非常に少ないそうです。

曳

家工事は、建物の構造や周辺環境を調査し、移動計画を立てることから始まります。「建物は一つ一つ違っているため、建築当時の工法や材料は同じでも、間取りや水回りの配置等、置かれた地盤によってもジャッキの重量バランスが変わります。また、作業状況の判断を誤ると建物にひびが入りかねないの



市民俳壇

日向ぼこうたたね爺のひぎに三毛

千渡 早藤 秋人

牙返る大谷石蔵茶寮かな

万町 海原ゆう子

春光や朱布真新し六地藏

引田 斎藤 良明

遠き日の母と行きたる花衣^{はなころも}

榎木町 上野佐喜子

蠟梅香うつむき慈愛ただよはせ

松原一丁目 伊東 康則

水仙や巡り巡りて喜寿近し

中栗野 大塚 初江

宮参りスタジオ入りの初写真

北半田 青木 久

通学路猪^し除けフェンス輝けり

油田町 酒井 國男

市民歌壇

小林 夏江選

老い刻む二人にとどきしおでん鍋嫁の優しさしみる大根

上野町 榎木 和子

直売所は春の香りに包まれし芹を見つけて思い巡らす

西沢町 安達 和子

並べ置く二台のスマホ疲れ切り眠り付くこと

万町 中又 令子

名前(ふりがな)・住所を明記し、はがき・メールで応募ください。締切は毎月20日(到着分)です。〒322-8601 今宮町1-9-808-1 メール kohoo@city.kanuma.lg.jp 広報広聴係(応募部門を明記)

布川 武男選

曳家工事の工程



①調査



②あげや
揚家



③ひきや
曳家



④据え付け・補修



▲ジャッキで持ち上げる建物



▲ジャッキ操作盤を操作する五月女さん

で、綿密な調査が必要ですよ」と計画の重要性について五月女さんは話します。

次 は、揚家の工程です。揚家工物をそのまま持ち上げる作業です。建物の構造により建物を揚げる方法は異なるそうで、建物下にかかる圧力を確認しながら、ミリ単位で高さを調整します。ジャッキ1台で20トンを上げることができそうです。

曳 家は、油圧ジャッキで建物を押して移動する作業です。昔はワイヤーなどで建物を曳いたため曳家と言われたそうです。建築物の構造、工法、使用材料の知識、状況判断など、同社の先輩から伝えられた技と経験を生かし、さらに、新たな工法の住宅にも対応できるように、研究を重ねているそうです。

最 後の工程、据え付けは水平垂直を調整確認し、移動先の地盤に建物を固定する作業です。仕上げで、リフォーム・外構工事などを行い、建物を元の状態に戻します。

五 月女さんが作業で心がけていることは、「建物を傷つけないこと」と「安全に運ぶこと」だと話します。また、この仕事のやりがいについて、「住み慣れた、思い入れのある家に住み続けることができている」とお客さんから感謝の言葉をいただくことだと、五月女さんは笑顔で話します。

春光のグラウンドに集う若者ら砂を蹴り上ぐ息の激しく
睦町 高村 光夫

手を振りて手術室へと消えし夫心もとなくむなしさ募る
板 荷 鹿野富美子

庭白く見ゆるは月の光なり雪は早くも止みて静寂
寺 町 石田 忠

いくたびもローマ字社名暗誦す孫の人生始まる戦場
深 程 川津 明子

冬空に飛行機雲が延びて行く幾つの夢乗せいずこへ行くや
上野町 竹澤 光子

市民川柳
海渡る朗希投手に又期待
加 園 大貫 里子

セキリティ効かせてスマホ貝になる
上 殿 町 木暮 靖子

リハビリも阿吽の呼吸重要に
坂田山四丁目 佐藤佳予子

宝くじいつもはずれて春の風
栄町一丁目 中荒井弘美

気を強く老いと闘う腰と足
下奈良部町 小野口 博

ケアマネの優しい言葉胸に沁み
西沢町 竹沢 富子

ゴルフ仲間集うグラウンド春日和
加 園 池田 大

百円で四袋買えるモヤシです
東町三丁目 松永 治子

はたちの座談会

予算

古澤育英会

戸籍／フラッシュ

市民のひろば

みんなの健康

お知らせ

木版画大賞